

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	八王子市立北野保育園
-----	------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な自然

<テーマの設定理由>

こどもたちが興味を示している虫や植物などの自然を通して、好奇心や探究心の芽生えを育むため。

2. 活動スケジュール

【Ⅰ期】戸外遊びの中で、身近な自然を見つけたり触れたりして親しみを持ち、知りたいことや疑問が生まれる。

【Ⅱ期】こどもたちと予想をしながら調べたり観察したりする経験を重ねる。

【Ⅲ期】様々な身の回りの自然に興味を持ち、見たい、知りたい、試したい、伝えたいという意欲が高まり、自分が発見したことを友達と共有する活動が盛んになる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

虫かご、アリ飼育セット、長池公園での自然探し体験、簡易顕微鏡

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【園庭遊び】

自由遊びの中で、虫や植物など身の回りの自然に興味、関心をもつ。

【長池公園での自然探し体験】

身の回りの自然に親しみをもち、予想して調べたり観察したりする経験を重ねながら、自分が発見したことを友達と共有する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【園庭遊び】

園庭の様々な場所にアリがいることに気づき、アリを捕まえたい一心で追いかけていくと、アリの巣にたどり着く。「この穴の中は、どうなってるの?」「アリのおうちだよ?」などという言葉が聞かれ、飼育セットを使ってアリの巣を観察することにした。毎日アリの巣の形が変わっていくのを熱心に眺めていたので、保育者は、形の変化やこどもたちの発言を記録に取り、クラスに共有していった。子ども同士のやりとりの中で「アリは葉っぱが好きなんだよ。」と、アリの巣に葉っぱを入れようとする子がいると「葉っぱは好きじゃないよ。」と、それを止める子がいて、アリの好きな食べ物を皆で調べるようになった。それぞれの予想を伝え合い、用意して巣に入れてみる。食べなかったら、次の予想をして、また入れてみるというのを繰り返し、アリの様子を観察した。

【長池公園での自然探し体験】

寒くなってくると、園庭に虫があまりいないことに気付いた子から「みんなどこにいるの?」と、疑問の声があがった。長池公園には、ダンゴムシやてんとう虫やアリなど、普段園庭にいる虫を探しに行くことになった。足元や周りの自然を見ながら、ゆっくりと公園内を歩いて進んでいく。環境教育担当が公園内を案内してくれて、葉っぱの裏で冬を越す虫を見つけることができた。虫を探す中で、見つけた葉や木の実などを「これはなに?」と、友達や保育者に尋ねる子もいれば、環境教育担当に聞きに行く子もいた。見つけたものは、プラカップで作った入れ物に入れて集め、持ち帰った。

翌日、虫眼鏡や顕微鏡を用意しておくと、持ち帰ったものを見てみようとする姿があり、保育者に使い方を聞きながら観察。「白くてブツブツしているよ」「ドングリの上がとがっているよ」など、気付いたことを伝え合った。どングリの形が違うものがあることに気付いた子がいて、クラスで共有できるような機会をもった。保育室内にある図鑑を持ち出す子もいて、皆で一緒に探して調べていった。



5. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき>

アリの飼育では、実際に“アリのおうち”が作られていく過程を見て、夢中になって観察しているこどもたちの姿があった。「アリは葉っぱが好きか？」という疑問に対しても、保育者が答えを出すのではなく、実際に試して観察することで「これはどうかな？」と、様々な食べ物を試したい意欲や探求したい気持ちが生まれていた。好きな食べ物を特定することはできなかったが、自分の考えたことを言ってみて、実際に観察したり、調べたりする経験を重ねることができ、言葉で思いを伝え合うことにもつながっていったと思う。

長池公園では、冬の虫の様子を観察しに行ったが、それ以外の発見も多くあった。見たことのない葉や木の実を見つけ、自分から聞いてみたり観察したりする姿が見られた。普段の戸外散歩では安全確保を優先し「危ないから前を向いて歩いてね。」と、声をかけることが多いが、今回の自然探しでは、身の回りにこんなにもたくさんの自然があることを改めて実感することができた。身近な環境を大切に保育をしていきたい。